

# 平成27年度国立高等専門学校職員海外研修参加報告

石塚 和則\*

## Report of overseas training for staff at National Institute of Technology in 2015.

Kazunori ISHITSUKA

**Abstract** – This paper reports on the overseas development training for staff at National Institute of Technology in 2015. I participated in the training held at Toyohashi University of Technology in Penang and the University Sains Malaysia for 16 days from February 13th to 28th. I had a lot of valuable experience through my training program. In this paper, I report my precious experience in Malaysia and the supportive action for international students at National Institute of Technology Kushiro College after returning home to make use of the training outcomes.

**Key words** : Overseas Training , Staff Development Training

### 1. はじめに

この紀要は、平成27年度国立高等専門学校職員海外研修について報告するものである。平成28年2月13日から2月28日の16日間の日程で、マレーシアの豊橋科学技術大学ペナン校（TUT-USM Penang）ならびにマレーシアサイエンス大学（USM）において行われた研修に参加する機会を得た。研修を通して体験してきたこと、ならびに研修成果を生かすべく帰国後に実践した内容について報告する。

### 2. 研修の概要

#### 2. 1 研修の目的

国立高等専門学校を巡るグローバル化の進展に適切に対応するため、中長期的な視野に立ち、国際比較を含めさまざまな角度から多面的に企画・立案し、国際的に活躍できる人材を計画的に育成する必要がある。このような状況下、本研修は英語を駆使した国際実務等の経験を積むことにより、グローバル化組織改革の担い手となる職員の資質を高め、自発的な能力開発を促すことを目的として実施された。なお本研修は、国立大学改革強化推進事業「三機関（長岡技術科学大学、

豊橋技術科学大学、国立高等専門学校機構）が連携・協働した教育改革～世界で活躍し、イノベーションを起こす実践的技術者の育成～」(三機関連携事業)の一環として、豊橋技術科学大学の主催のもと実施された。

#### 2. 2 日程

渡航前、日本において「国際プロトコール」、「実践英会話」、「国際法務」、「国際会議運営」、「大学間協定書作成」について、のべ10日間の研修を受けたのち、ペナンにおける研修は平成28年2月15日（月）～2月26日（金）に実施された。なお参加した研修とは別に平成28年1月19日（火）～1月29日（金）においても同様の研修が行われ、英語レベルに応じて2回にわけて行われた。

#### 2. 3 参加者

豊橋技術科学大学職員3名、長岡技術科学大学職員1名、高専職員3名（舞鶴、小山、釧路）、以上の7名の参加により研修が行われた（図1）。

#### 2. 4 研修場所

研修はマレーシア国ペナン州にある次の3施設でおこなわれた。

---

\* 釧路高専 教育研究支援センター

- 1) DISTED カレッジ
- 2) 豊橋技術科学大学マレーシア教育拠点（ペナン校）
- 3) マレーシアサインズ大学（USM）

### 3. マレーシア国ペナン州について

マレーシアは東南アジアに位置し、その領土はマレー半島南部とボルネオ島北部にまたがる国家である。北部はタイ、東部はインドネシア、南部はシンガポールと接している。人口は約3000万人で、公用語はマレーシア語、英語である。2013年度GDPでマレーシアの経済規模は世界35位であり、天然資源ではスズが豊富に採れ、日本が輸入する天然ガスの約20%はマレーシア産と言われている。古くからゴムのプランテーションが盛んであるが、近年はIT産業や様々な工業分野で国産化を推進し、工業の発展に力をいれている。研修場所のペナン州は、人口割合がマレー系約40%、中華系約40%、インド系約7%と多民族な都市であり、「ペナン島」として日本人にも有名なりゾート地でもある。また宗教も多様であり、イスラム教約60%、仏教約20%、キリスト教10%、ヒンドゥー教約6%と文化や宗教の面で多様であることがマレーシアの特徴の一つである

（図2）。気候は熱帯に位置するため年間を通じて高温多湿である。州都ジョージタウンは、首都クアラ・ Lumpurに次ぐ第二の都市で、ジョージタウンの街並はユネスコの世界遺産に登録されており、歴史的にも貴重な街である。ペナン州には約60社と多くの日系企業があり、豊橋技術科学大学ではペナン校を拠点として海外インターンシップをさかんに行っている。



図1. 研修生と他高専の教員



図2. 休日を利用しモスク内部を見学

### 4. マレーシアサインズ大学について

1969年に設置された国立大学でマレーシアでは二番目に古い大学であり、5つのキャンパスに分かれている。メインキャンパスはペナン島に位置し、一部のキャンパスは海をへだてた対岸のマレー半島にある。外国語学部、経営学部、教育学部、薬学部、医学部、工学部をはじめ26の学部を有する非常に大きな大学である。学業においてはマレーシアではトップクラスの大学で、2万人を超える学部生および院生が在籍している。大学ランキングWorld Universities' ranking on the Web（2010年）によると、マレーシアサインズ大学はマレーシア国内第1位の大学で、アジアで58位、世界で585位となっており、非常に優秀な人材を数多く輩出している。

### 5. 研修内容

#### 5. 1 DISTEDカレッジにおける研修

2/16～2/19の4日間、下記の語学研修が行われた。

- General Greeting/Understanding English
- Email etiquette/Customer Service
- Problem Solving
- Leave a secret message /Sharing and Postmortem

研修では英会話や文章作成など語学研修にとどまらず、カスタマーサービスについての講義もあった。このようなカスタマーサービスを自分の置かれている立場で考えた場合、学生に対するサービスと関連づけて認識できたため、非常に有意義であった。

#### 5. 2 豊橋技術科学大学ペナン校における研修

各日の研修の終了後、豊橋技科大ペナン校において業務支援をおこない、合わせて下記に示す各種の講義を受講し、グローバル化に関するワークショップも行った。

- 講義：国立大学改革強化推進事業/マレーシア概要
- 講義：日本学術振興会海外研究連絡センタについて
- 豊橋技科大理事ならびに国際交流室長との懇談
- 講義：USMについて
- ワークショップ、グローバル講義

ワークショップでは、豊橋技科大、長岡技科大、舞鶴高専、小山高専それぞれのグローバル化の現状について知ることができた。大学においてはモスク施設を準備し、校内放送を英語で行うなどグローバルについての進んだ取り組みがあった。また講義の最後には、各自のグローバル化への取り組みについて決意を表明するという場面もあり、これから自分に何ができるのか、何を心掛けていくべきか考える場となり、大変有意義であった。

### 5. 3 マレーシアサインズ大学における聞き取り調査および意見交換

2/23日～25日の3日間マレーシアサインズ大学を訪問し、施設見学の後下記の10か所において、実情調査と意見交換を行った。なお調査にあたっては、事前に各自が考えた質問項目が、先方の対応者に渡っており、すぐに中身の濃い議論が行えるよう配慮されていた。

- Office of Human Resources (図3)
- Center for Research on Women and Gender
- Office of Academic and International (図4)
- Academic Affairs Division
- Student Affairs Division
- Human Transformation Center (図5)
- Davison of Industry and Community Network
- Research Creativity and Management office /Center for Research Initiative
- Clinic (図6)
- Center for Chemical Biology(Research Campus)

各訪問部署とも1時間から1時間半程度の時間で面談を行い、時間的には十分であった。ヒアリングして感じたのは、マレーシアの大学でも日本の高専でも、目標とするところはほぼ同じということである。中でも印象残ったことは、学生に対する取り組みとして、学習や研究以外の活動を評価し、ポイントを与える制度である。このポイントプログラムを満たすことで就職時に有利なように評価される。これにより学生は大学の行事に協力したり、快適な学生生活を送る環境づくりのために大学に対して提案をおこなったりする。このようなポイントプログラムは大学に積極的にかかわる動機づけになっていた。また、職員に関して、人材育成のための3年間の自己研さん研修制度のようなものが存在し、例えば修士号を得る為の長期休暇取得を推奨するなど、大学として個人の能力開発に力をいれている点が素晴らしいと感じた。また、いずれの部署でも我々の訪問を非常にフレンドリーに温かく受け入れてもらった。日本人の礼儀正しい対応とはまた違う、心地の良い対応であった事が印象深かった。

施設見学において、学生が学内で物品やパンなどを販売している姿が目にとまった。学生が学内で商店を運営する姿は日本では見かけない風景であるが、学生が自ら行動する力を養うものであり、日本とは違う人材育成のあり方であると感じ、その点も印象に残った。

### 6. 研修後の取り組み

研修で得られた経験を業務へ反映したいと考え、本校の留学生への積極的な対応を試みた。これまでも協定



図3. Human Recoursesにおける実情調査



図4. Academic and Internationalにおける実情調査



図5. Human Transformation centerにおける実情調査



図6. Clinicにおける実情調査

校であるフィンランドのトゥルク応用化学大学とタイのキングモンクット工科大学からの交換留学生が機械工学科に配属され、留学生の存在は身近であったにもかかわらず、これまでは自信の無さと遠慮から、学生サービスの提供はおろか、声さえもかけることができていた。これまでの態度を反省し、研修経験をバネに今後は積極的に関わっていきたい。研修で得たグローバル化の視点を少しでも活用すべく、新たな取り組みとして次に示す2つの実習を行った。

### 6.1 フィンランド交換留学生への対応

本校機械工学科4学年に実施するCAD/CAM実習教材を活用し、英語で対話を試みNC加工実習を行った。これは、作成したCADデータを用いた印鑑を製作するものである(図7)。フィンランド語を漢字に置き換え、文字を形彫り加工した。たとえば留学生のラハデ君は、「LÄHDE」というフィンランド語が「水の湧き出る所」という意味であったので「湧水」と当て字を用いるなどした。完成後は大変喜んでもらえ、自分として英語表現力を向上させる貴重な機会となった。

### 6.2 マレーシア留学生への対応

マレーシアからの留学生が機械工学科3学年に4月から編入し、工作実習を担当している。留学生は2学年の工作実習を行わずに3学年の工作実習を行うため、工作実習経験が不足している。また日本語で専門用語を説明するため、周囲の学生に追いつくのが大変な状況である。そこで夏季休業期間を利用し2回の特別補習をおこなった。マンツーマンの指導により、片言の英語をまじえながら指導することができた。また実習レポートの指導については英語の加筆も加えるなどし、マレーシア留学生の実習内容の理解と工作能力向上に寄与できた。

## 7. まとめ

今回の研修参加には2つの目的があった。一つは、実践的体験により英語能力を向上させることである。マレーシアの方々の英語能力の高さを知る一方で、自己の英語能力が不足していること、特に英語で伝える能力の無さを痛感した。グローバル化のためには何よりも確かな語学力が必要である。研修体験は今後も英語の学習をつづけていくうえでの大きな動機づけとなった。語学を短期間に身につけるのは困難であり、不断の努力が大切である。留学生とのスムーズなコミュニケーションが実現するように努力をつづけていきたい。



図7. フィンランド留学生と完成した印鑑

目的の2つ目は、留学生への対応力向上ため、留学生のバックグラウンドとしてのマレーシアの教育環境やその文化を理解することである。これまでにマレーシアからの留学生に接する機会は多々あったが、マレーシアについてほとんど知らないままだった。今回マレーシアの文化、宗教、日常生活、人柄に触れ、2週間という短い期間であったが、マレーシアに対する理解が非常に深まった(図8、図9)。相手を理解しようとする姿勢がグローバル化そのものであると考えられる。その点でマレーシアは多民族国家であり、他の文化とうまく共存し、いろいろな文化を理解し受け入れようとする姿勢が強い国であり、まさしくグローバル化を実践している国であると感じた。

「国際化の加速・推進」は、高専がかかげる目標の一つである。今後も微力ながらグローバル化に寄与すべく、本校協定校であるフィンランドやタイからの交換留学生、ならびに3学年に編入する国費留学生にたいして積極的に話かけ、さまざまな相談にのることで学生サービスを向上させたいと考える。

今回このような貴重な体験をさせていただいたことに感謝するとともに、今後もなるべく多くの職員がグローバル意識の向上につながる同様な研修の機会が持てることを願っている。



図8. 豊橋技科大ペナン校の裏山にいた野生猿の群れ



図9. 研修中に行われたDISTEDカレッジの春節祭  
(Chinese New Year Dragon Dance)